

【調査結果に関して】

- ・「情報の読み取り」に課題がある。情報活用能力や言語能力などを教科横断的に育てていくことが大切である。

【授業づくりに関して】

- ・若手教員が増加しているため、まずは授業づくりのスタンダードから確認する必要がある。県教委が今後公開する授業動画は、そのスタンダードを学ぶという意味でも期待している。
- ・家庭にある本の冊数と正答率には関係があるという調査結果があるが、授業で「主体的・対話的で深い学び」に取り組んでいる子どもは、家庭にある本の冊数に関わらず、正答率が高い傾向にある。
- ・この授業で何ができるようになればよいのか、何をどのように考えればよいのかが明確に示されていない授業になってはいないか。

【思考力・判断力・表現力の育成に関して】

- ・調査結果について、学校内で全職員が関わって分析を行い、その結果を共有し、授業や児童生徒の個々の指導に活用していくことが大切である。
- ・思考力・判断力・表現力の育成については、教科の中の指導だけでなく、学校教育全体の中で自分の考えを表現する取組等を行っていく必要がある。
- ・教員が細かく指導し過ぎてはいないか。子どもに考えさせるべきことを、教師が説明していないか。

【家庭との連携に関して】

- ・子どもが自分の考えを説明する力を付けるためには、家庭と学校が連携をしながら、学校からの情報を基に、6年間やその先を見通して親が子どもに働き掛けを行っていく必要がある。
- ・子どもの考える力を育むには、幼児期からの大人の働き掛けが大切である。子どもが思いや考えを表現することを「待つ」大人の姿勢や関わりが必要である。また、家庭でも、子どもとの対話が大切である。